

# 「協同組合らしさ」を考える

— 「生協らしさ」を知り 学んで —

元コープあいち副理事長  
八木 憲一郎

(2022年9月17日)

# はじめに

## (1) 自己紹介

- 1971年2月 東三河地域での生協づくりの活動に参加  
74年3月 東三河生協設立（79年みかわ市民生協に名称変更）  
\* 専務理事・副理事長・理事長を務める
- 2010年3月 名勤生協と合併しコープあいち誕生  
12年6月 コープあいち副理事長退任（常任顧問・顧問など担当）
- この間、東海コープ・地域と協同の研究センターなどの設立活動などに参加

## (2) 今日お話しすることについて

- 「協同組合のアイデンティティ」って！  
・・・ 考えれば考えるほど、語り合うことは難しい・・・
- 「協同組合（生協）にとって大事なこと＝協同組合らしさ」について、学び  
教えられ大事にしてきた、という「私の体験」ならば、お話しできるかも…

# 1. 協同組合の「アイデンティティ」って・・・ちょっと考えてみると

- (1) **identity** = 私は何もの？
  - = 私は「このような私」であるという自覚・認識（を持つこと）
  - 日本語では表現しにくい・分かりにくい言葉（のひとつ）
  - このセミナーでは「らしさ」と表現
- (2) 身近なところでは「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」がある・・・
  - 1995年9月のICA全体総会で採択された「ICA声明」では、協同組合の「定義」「価値」と「原則」がまとめられた
- (3) 「ICA声明」を受け、日本の生協では1997年6月の日本生協連第47回総会で「生協の21世紀理念と21世紀ビジョン」が協議され、採択された
  - 「生協の21世紀理念」は2050年まで変わらないもの
  - それぞれの生協では、この理念を軸に、「2020年ビジョン」「2030年ビジョン」や中期計画をつくり、実践に取り組んでいる

⇒⇒ **そこで、私が学び体験し、取り組んできたことを中心に、  
「協同組合らしさ」を考えてみます**

## 2. 生協の仕事(活動)を始めた頃(60年代から70年代へ)

- (1) 中・高・大の60年代、「日本経済の成長期」を体験
- 所得倍増計画(ベースアップ)、東海道新幹線開通、東京オリンピック開催、名神高速道路全線開通、東名高速道路全線開通、大阪万博開催(1970年)
  - スーパーマーケット(チェーンストア)の誕生・発展
  - 豊かな食品・食生活 ⇒ みんなが「豊かさ」をめざして
- (2) 成長のヒズミがくらしに表れ始めた頃、漠然とした不安と怒りも
- 四日市ぜんそく、水俣病、イタイイタイ病などの「公害」が社会問題に
  - 食の安全(農薬、食品添加物・合成洗剤など)や物価高
  - 消費者運動(主婦連、消団連……ケネディ消費者4つの権利、ラルフネーダー)
- (3) 70年代に入って、高度経済成長の弊害(ツケ)がくらしを直撃!
- 地域に生活防衛の共同購入活動、そして生協づくり(60年代後半~)
  - 石油パニック(1973年)、高学歴の「専業主婦」増加、女性の社会進出も  
⇒ 1971年、生協設立活動に参加(25才)

- (4) この時期、豊橋では、「生協と私のつながり」はなかった
- 東三河地方では、農業協同組合の存在は大きかった。しかし、生活協同組合はなかった（戦後たくさん生まれた町内会型生協の「名称」は残っていたが）
- (5) 学生生活を送った関西では、大学生協の組合員になり、食堂や購買を利用していた。時には、地域にある生協の店舗も利用した。勿論、員外利用だったが・・・。
- 何となく感じた「真面目で正直な大学生協」という印象
  - 組合員（地域）と生協（職員）の距離の近さと温かさを感じた “**コープの店**”



このようにいくつかの体験から私が抱いた「生協らしさ」  
「生協って、こういう組織なんだ」という「生協のイメージ」は・・・？！

- <1> 利用者（組合員）に対して「真面目に向き合う生協」「正直な生協」
- <2> 生協は地域の一員、生協（職員）と組合員（顧客）の信頼関係
- <3> よりよい生活と平和のために（平和とよりよい生活のために）

(6) 東三河地域での生協づくりと消費者運動

- 戦後の「町内会生協」から「職域生協」、労働組合による地域生協づくり、60年代後半、全国で大学生協による地域での生協づくり・支援活動
  - ・ 愛知大学豊橋生協の設立（60年代末）と地域生協づくり
  - ・ 生協を知らない若者たちによる生協づくり（1971年～）
    - ⇒ 生協のいいイメージ・魅力と消費者運動のひろがりなど
    - ⇒ 「東三河は消費者運動不毛の地だよ」の声さえも声援に

(7) 三河地域の職域生協を訪問し「生協のつくり方」について教えていただいた

- 「生協法と模範定款例」の書籍をいただいた
  - ・ 「生協法第1条」「定款例第1条」が「生協とは？」の入口だった
  - ・ 「当たり前」の内容だが、「生協とはこういう組織だ」ということに初めて接し、強い印象を持った
  - ・ 当時のメンバーの間では、「生協らしさ」の大・大前提という受け止め方をしていたのではないか

## (8) 消費生活協同組合法

### 第1条 (目的)

この法律は、国民の自発的な生活協同組織の発達を図り、もって国民生活の安定と生活文化の向上を期することを目的とする

### 生協の定款

### 第1条 (目的)

この生活協同組合（以下「組合」という。）は、協同互助の精神に基づき、組合員の生活の文化的経済的改善向上を図ることを目的とする。

(9) 文字に書かれた「生協のアイデンティティ (生協らしさ)」に触れた初めての体験だったかもしれない (組織の目的や運営などの原則や生協の社会的役割を感じた)

○ 生協の目的は、組合員の生活を文化的経済的に改善向上させることなんだ。

しかも、協同互助の精神に基づいて・・・。

○ 国民の自発的な生活協同組織の発達を通して、国民生活の安定と生活文化の向上を期そうと、国は生協法をつくり、生協の育成を見守っているんだ・・・。

(10) そして1974年。東三河生協が設立され、組合員自身が運営する生協をめざして苦闘している1980年、協同組合 (運動) が果たすべき役割などについて、大いに議論し、大いに考える契機がおとずれた。

### 3. レイドロウ論文に出会って

- (1) 1980年8月、レイドロウ報告「西暦2000年における協同組合」に出会って
- レイドロウ報告は1980年10月のICAモスクワ大会の主要議題
    - ・ 第1章「大会の展望」、第2章「世界の趨勢と諸問題」、第3章「協同組合の理論と実践」、第4章「協同組合の活動とその問題点」、第5章「将来の選択」、第6章「主要な論点と重要な選択」からなる
  - 協同組合3つの危機、世界（地球）が抱える諸問題、協同組合のあり方・求められるものと問題点、将来の選択（4つの優先分野）
  - 特に違和感を感じた「現状評価（問題点）」
    - ・ 協同組合先進地ヨーロッパの生協が衰退「？」
    - ・ 語られない展望に「？・！」＝我々には「見えない」だけだったが
  - ヨーロッパの生協の長く大きな「後退」 ⇔ 成長期の共同購入生協
    - ・ 現実を正しく読み取れない私（たち）の「弱さ」が根本問題！



(2) 1981年10月、「ヨーロッパの職員教育の視察研修」に参加して

- イギリス・スウェーデン・オーストリア・フランスの生協学校を訪問
  - ・ レイドロウ報告（ICA大会）から1年（大いに期待して…）
  - ・ 初めての海外研修、何でも見てみよう・聞いてみようと思気盛んな同世代メンバー（コープこうべ・さいたま）との交流機会に恵まれた
  - ・ イギリスの生協の現実に触れて
    - ⇒ 店舗で見、聞いたこと・・・組合員はどこに？  
理事会は・・・経営・業務組織と切り離された組合員（組織）
    - ⇒ ロッチデイル（の精神）はどこに行ったのか・・・記念館では140年前の大家さん（の子孫）の方が「日本からのお客さんに挨拶したい」と駆けつけてくれたのだが・・・
  - ・ スウェーデンの生協の取り組んでいること、現状や展望に確信を覚えたが、フランス生協連では「チョッピリ」不安も…
  - ・ レイドロウ報告は話題にならなかった＝報告の意義・価値が高まった！

## 4. 話し合ってきた「協同組合(生協)らしさ」を思い出して

- (1) 70年代に学び体験した「生協らしさ（生協のアイデンティティ）」に、巾と深み、そして未来を見る（素朴な）目を持って、「今・未来を考え、議論する」ことが必要だ
- (2) レイドロウ報告から始まった「協同組合のアイデンティティ」＝「協同組合（生協）らしさを体験する旅」から「協同組合のアイデンティティ」を考える
- 第27回ICAモスクワ大会におけるレイドロウ報告(1980年)
    - ・・・「西暦2000年における協同組合」
  - 第29回ICAストックホルム大会におけるマルコス会長報告（1988年）
  - 第30回ICA東京大会におけるベーク報告(1992年)
    - ・・・「変化する世界における協同組合の価値」
  - ICA100周年「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」（1995年）  
「日本の生協の21世紀理念とビジョン」（1997年）

### (3) 20世紀から21世紀へ

- 今こそ、大いに「協同組合のアイデンティティ（らしさ）」を議論し、協同組合の原点をしっかりと踏みしめた「2020年代の実践」を！
- それこそが「2030ビジョン」の実践につながる  
この10年間、
  - ・ 2012年国際協同組合年（IYC）  
⇒ 「協同組合の10年に向けた計画（ブループリント）」
  - ・ 2016年協同組合の思想と実践が「ユネスコ無形文化遺産」に登録
  - ・ 2021年ICAソウル大会  
⇒ 協同組合のアイデンティティを深める議論が活発に行われた

改めて、1980年のICAモスクワ大会以降の  
「協同組合らしさ」を求める取り組みを振り返ってみたい

## 5. 学び教えられ、体験した「協同組合(生協)らしさ」

### (1) レイドロウ報告

- 協同組合の成長と変化の時代——それぞれの時代の危機
  - ・ 第1の危機（信頼の危機）
  - ・ 第2の危機（経営の危機）
  - ・ 第3の危機（思想上の危機）
  - ・ 「創立期」から「充実・改革期」へ⇒新しい危機は如何にして起こるか？
- 世界の情勢や現状分析、協同組合の基本的性格、協同組合の現状と課題・問題点
- 協同組合の「将来の選択」——4つの優先分野
  - ・ 第1優先分野：世界の飢えを満たす協同組合
  - ・ 第2優先分野：生産的労働のための協同組合
  - ・ 第3優先分野：社会の保護者をめざす協同組合
  - ・ 第4優先分野：協同組合地域社会の建設

(2) 第29回ICAストックホルム大会(1988年)

- マルコス会長から「協同組合の基本的価値」が報告(提案)された
- 日本の生協(班)から学び「参加・民主主義・誠実・他人への配慮」を提案

(3) 第30回ICA東京大会(1992年)

- モスクワ大会以降続けられてきた「協同組合の基本的価値や協同組合原則の見直し」に関する国際的な討論も、この大会で出されたベーク報告で一応の幕が閉じられた
  - ・ ベーク報告では「グローバルな基本的価値についての勧告(5つ)」のなかの「ニーズに応える経済活動」がよく知られている
- 10年余の討論は、ICA100周年記念総会(1995年)で、「ICA声明」というかたちに結実した
- 大会終了後、大会出席の代議員が日本全国の生協を見学・訪問した。
  - ・ 「HAN」を見たい、という要望には、共同購入の見学や、特別に班会を開催して、組合員の声で運営される「民主的運営」の形を体感していただきました

(4) 1995年ICA100周年記念全体総会（マンチェスター）で、「協同組合のアイデンティティに関するICA声明（定義・価値・原則）」が採択された

○ <協同組合の定義>

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

○ <協同組合の価値>

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

○ <協同組合の原則>

1937年 第15回パリ大会で採択	1966年 第23回ウィーン大会で採択	1995年 第31回マンチェスター大会で採択
(1) 加入・脱退の自由	(1) 加入・脱退の自由	(1) 自発的で開かれた組合員制
(2) 民主的運営（一人一票）	(2) 民主的運営	(2) 組合員による民主的管理
(3) 利用高に応じた割り戻	(3) 出資金への利子の制限	(3) 組合員の経済的参加
(4) 出資金への利子の制限	(4) 剰余金の分配	(4) 自治と自立
(5) 政治的・宗教的中立		
(6) 現金取引		
(7) 教育活動促進	(5) 教育の重視	(5) 教育・訓練・広報
	(6) 協同組合間の連帯強化	(6) 協同組合間協同
		(7) コミュニティへの関与

(5) 1997年日本生協連総会で「日本の生協の21世紀理念とビジョン」が採択された

○ 日本の生協の21世紀理念（50年間変わらない信条）

自立した市民の協同の力で

人間らしいくらしの創造と 持続可能な社会の実現を

○ 日本の生協の21世紀ビジョン（10年後になっている姿）

トータルビジョン

信頼される事業と活動を通じて 人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現に  
積極的役割を果たしています

ビジョン1

組合員の多様で広範な参加で、くらしの願いを実現しています

ビジョン2

未来開発に挑戦できる経営基盤を確立し、マネジメントを革新しつづけています

ビジョン3

自発性と多様性がいきづく、開かれた組合員組織を創造しています

ビジョン4

国内外の人びとと手をつなぎ、広範な協同の輪をつくりあげています

## (6) 2010年ビジョンから2020年ビジョン、そして2030年ビジョンへ

### ○ 日本の生協の2020年ビジョン（2011年6月日本生協連総会）

#### ☆ ビジョン（10年後—2020年のありたい姿）

私たちは、人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現をめざします

#### ☆ ビジョンを実現するための5つのアクションプラン

<1>組合員の願いを実現するために、食を中心にふだんの暮らしへの役立ちをより一層高めます。事業革新に不断の努力をつづけ、組合員の暮らしに貢献し、信頼を培います。

<2>地域ネットワークを広げながら、地域社会づくりに参加します。

<3>平和で持続可能な社会と安心してらせる日本社会の実現をめざし、積極的な役割を果たします。

<4>組合員が元気に参加し、職員が元気に働き、学び合あい成長する組織と、健全な経営を確立します。

<5>全国が生協が力を合わせ、組合員の暮らしに最も役立つ生協に発展させます。



(7) 2020年6月の日本生協連第70回総会で、「日本の生協の2030年ビジョン」が採択された。2年間にわたって組合員を中心に全国1000人余の参加者が「生協のありたい姿」を語り合ってつくられたビジョンは、SDGsの考え方をベースに生協がめざす姿が描かれ、人・地域との「つながる力」で5つの目標が描かれている。

### < 日本の生協の2030年ビジョン >

#### 1. 生涯にわたる心ゆたかな暮らし

私たちは、食を中心に、一人ひとりの暮らしへの役立ちを高め、誰もが生涯を通じて利用できる事業をつくりあげます

#### 2. 安心して暮らし続けられる地域社会

私たちは、生活インフラのひとつとして、地域になくってはならない存在となり、地域のネットワークの一翼を担います

#### 3. 誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本

私たちは、世界の人々とともに、持続可能で、お互いを認め合う共生社会を実現していきます

#### 4. 組合員と生協で働く誰もが生き活きと輝く生協

私たちは、未来へと続く健全な経営と、一人ひとりの組合員と働く誰もが生き活きと輝く生協を実現します

#### 5. より多くの人々がつながる生協

私たちは、より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、連帯と活動の基盤を強化します

- (8) いま・・・未来と過去、ともに見通して「現在」を**考えるとき**  
いま・・・新しい協同組合運動を**切り拓くとき**  
だからいま・・・新しい協同組合運動の価値をおおいに**議論するとき**

いつかのように

真っ白なキャンバスを用意して

みんなの想い、それぞれの願いを描き出してみると・・・

ありがとうございました

## 参考資料（レイドロウ報告「協同組合のイメージ」より）

※ 協同組合と呼ばれている組織について「他人は心の中に何をいただいているのか」を描いてみると…

- ① 協同組合とは、「CO-OP」という表示をした小売店舗のことで、街で最新の店とは限らない
- ② ある人にとっては、協同組合とは、特に“労働者”の学習機関である
- ③ ある地域では、単なる農民の組織と見られている
- ④ ある評論家は、19世紀にはその価値があったが、現在では過去のものとなった一つの思想であるという
- ⑤ ある地域では、貧しい者は協同組合を自分たちのニーズには応えてくれない中産階級の事業と見ている
- ⑥ 第3世界の多くの国々では、人々は、協同組合は政府からの資金を受ける機関だと考えている
- ⑦ ある政治家にとっては、協同組合とは、より大きな権力をつかむための便利な踏み石である
- ⑧ 私企業家は、協同組合とは、彼らなら、納めなければならない税金を免除される方法であると考え
- ⑨ 協同組合が、芳しくない履歴を持っているところでは、協同組合といえば、かならず、事業の失敗と結びつけて考えられる
- ⑩ 大変保守的な人々は、協同組合を、過激な行動の鋭い刃物と考える
- ⑪ しかし、左翼主義者は、現状を守る緩衝機関だと思っている
- ⑫ ある人は、協同組合を単に大企業もうひとつの形態であるとしている

（「西暦2000年における協同組合（80年8月版）P110～111」より）